

## 大阪府歴代の知事

## 官選知事

慶応4年9月8日までは慶応4年、以降は年号が明治となる。

大阪府知事	氏名	経歴	就任期間
初代	醍醐 忠順(ただまさ)	文久3年(1863)に権大納言に任命。慶応4年(1868)の戊辰戦争に従軍し、大きな戦功があった。のちに華族に列した。	慶応4年5月2日～ 同年5月23日
(府事管理)	小松 帯刀	島津久光の側近となり大久保利通と共に藩政改革に取り組む。文久2年(1862)家老職に就任。坂本龍馬と昵懇となり、亀山社中(のちの海援隊)設立を援助したり、龍馬の妻であるお龍の世話をしている。尚、薩長同盟における密約の場所や、桂小五郎が滞在したのも京都における小松邸であったと伝えられる。イギリスと薩摩の友好に尽力し、五代友厚らを密かにイギリスへ留学させる。新政府においては、徴士参与や外国事務掛、総裁局顧問、外国官副知官事、玄蕃頭などの要職を歴任。	慶応4年5月23日～ 同年7月12日
	後藤 象二郎	(下記に同じ)	
第2代	後藤 象二郎	土佐藩出身。坂本龍馬の「船中八策」を藩主の父山内容堂に「大政奉還」の建白書を提言。新政府で参与、左院議長、参議に就くが、明治6年(1873)の征韓論争に敗れ、板垣退助・西郷隆盛らと共に下野。板垣・江藤新平・副島種臣らと愛国公党を結成し、民選議院設立を建白する。明治14年(1891)、板垣を中心として自由党を結成。のちに黒田内閣や第1次松方内閣で逓信大臣、第2次伊藤内閣で農商務大臣などを歴任。	慶応4年7月12日～ 明治2年2月4日
知事御用取扱	三岡(由利) 公正	福井藩出身。横井小楠から財政学を学ぶ。橋本左内らと国事に奔走し、藩主松平慶永に抜擢される。殖産興業政策で窮乏した藩財政を再建。坂本龍馬から藩財政再建の手腕を買われ、新政府への参画を求められている。新政府では徴士参与として、金融財政政策を担当。一方で五箇条の御誓文の起草にも参画。明治4年(1871)、東京府知事に就任。明治7年(1874)、板垣退助や江藤新平らと共に、民撰議院設立の建白書を提出。明治8年(1875)、元老院議員。その後、子爵、貴族院議員。京都にて有隣生命保険会社の初代社長に就任。	明治2年2月4日～ 同年2月17日
第3代	西四辻 公業(にしよつつきみなり)	王政復古時に明治新政府の参与になり、戊辰戦争での功績により賞典禄200石を下賜されている。大阪府知事時代は、教育に力を注ぐ。大阪に120の小学校建設方針をたてる。生家の影響もあり、著名な歌人でもあった。	明治2年2月18日～ 明治4年11月20日
権知事	渡邊 昇	(下記に同じ)	明治4年11月22日～ 明治10年1月12日
第4代	渡邊 昇	斎藤弥九郎によって開かれた神道無念流「練兵館」の塾頭を経験。大村藩出身。	明治10年1月12日～ 明治13年5月4日
第5代	建野 郷三(たてのこうざう)		明治13年5月4日～ 明治22年3月16日
第6代	西村 捨三(すてぞう)	彦根藩出身。彦根藩作事奉行・西村又次郎の三男。明治新政府では内務官僚となる。明治14年、内務省警保局長に就任。明治16年沖繩県令に就任し、北大東島、南大東島の調査に携わり、南島の日本領土編入に尽力。明治34年に第1次松方内閣で農商務次官に就任した。	明治22年3月16日～ 明治24年6月15日
第7代	山田 信道	明治28年には京都府知事に就任。明治29年6月5日、維新や地方行政の功により男爵を授爵。明治30年、第2次松方内閣の農商務大臣として入閣。	明治24年6月15日～ 明治28年10月10日
第8代	内海 忠勝	長州藩出身。内務大臣(第20代)、長崎県令、三重県令、兵庫県知事、長野県知事、神奈川県知事、大阪府知事、京都府知事、会計検査院長、貴族院議員を務めた。従三位勲三等、死後に従二位勲一等大綬章。男爵。	明治28年10月10日～ 明治30年11月13日
第9代	時任 為基	天保13年生まれ。薩摩藩出身。藩の公用人下役を勤め、明治4年東京府に出仕。明治6年12月樺太に出張を命じられた。明治7年札幌本庁在勤となる。明治8年1月開拓権大書記官に任命。その後函館支庁に在勤。明治10年12月から20年1月支庁廃止となるまでの11年間、函館に住み着いた。「寛仁にして民を愛し、顔る徳望あり」。函館市街の改正、谷地頭の埋立、函館公園の開設、北海道運輸会社の設立等数多くの功績を挙げる。その後、宮崎県知事、元老院議員、高知県知事、静岡県知事、愛知県知事、大阪府知事、宮城県知事を歴任。	明治30年11月13日～ 明治31年6月3日
第10代	沖 守固	天保12年生まれ。鳥取藩出身。元治元年の「禁門の変」を前に、長州藩に協力するための出兵を乞い、京都・岡山に派遣された。同年8月御小姓、9月弟録(剛介)の堀庄次郎暗殺事件のため2年間幽閉された。明治維新後、京都留守居・公用人・公務人、明治2年鳥取藩少参事・権大参事、明治4年以後新政府に出仕。以後神奈川県、長崎県の知事を経て元老院議員となる。	明治31年6月3日～ 明治31年7月7日

大坂の史跡を訪ねてVol.8

代理(書記官)	吉原 三郎		明治31年7月7日～ 明治32年7月16日
第11代	菊池 侃二	大阪府知事の時「大阪府教育施設計画書」発表。 明治34年度中に図書館を開館する計画。現在の大 阪府立中之島図書館。	明治32年7月16日～ 明治37年6月9日 ※明治36年2月8日より 休職
第12代	高崎 親章	嘉永6年生まれ。薩摩藩出身。明治新政府の内務省 警視庁に入庁。初任は警部補。明治9年、同僚である 中原尚雄らと共に、墓参のため帰郷。実際は、川路 利良大警視の密命(西郷隆盛の実情を視察)を受け たものであった。西郷の私学校から武器・弾薬を勝手に 持ち出したため、私学校生らに捕縛。西南戦争の 引き金となった。西南戦争後救出され、地方官を歴 任。明治25年11月内務省警保局長。その後は茨城 県、長野県、岡山県、宮城県、京都府、大阪府の知 事を歴任。大阪府知事の時、明治36年、「府の教科 書採用に各社から賄賂を取り立てたため近々逮捕の 見込み」と新聞各紙に報じられる。立件はされず、高 崎はマスメディアに抗議することも官吏侮辱罪(現存 しない)で告訴することもしなかった。宮武外骨は、 『滑稽新聞』(月2回刊)で高崎が告訴しない件につい て質問状を掲載し、回答があるまで毎号連載すると 表明した。高崎は回答しないことを押し通しているう ち、『滑稽新聞』が先に廃刊となった。	明治36年2月8日～ 大正元年9月4日
第13代	犬塚 勝太郎		大正元年9月4日～ 大正2年1月27日
第14代	大久保 利武	慶応元年、薩摩にて大久保利通と満寿子の三男とし て生まれる。その後内務省に入省。鳥取県、大分県、 埼玉県、大阪府の知事を務めた。継嗣が居ない兄・ 利和の養子となり、昭和3年6月5日、利和の隠居に伴 い家督を相続し、6月15日には侯爵を継承。	大正2年1月27日～ 大正6年12月17日
第15代	林 市蔵	熊本市出身。三重県、山口県、大阪府の知事を歴 任。大阪の「民生委員の父」と称されます。淀屋橋南 詰に銅像が建てられています。	大正6年12月17日～ 大正9年2月3日
第16代	池松 時和		大正9年2月3日～ 大正11年10月16日
第17代	井上 孝哉	岐阜県出身。岐阜中学(現在の岐阜県立岐阜高等学 校)、第一高等学校を経て東京帝国大学(現在の東 京大学)卒業。	大正11年10月16日～ 大正12年6月15日
第18代	土岐 嘉平		大正12年6月15日～ 大正12年9月29日
第19代	中川 望	宮城県士族出身。東京帝国大学法科大学卒業。大 正6年、第14代山口県知事に就任。前知事を継ぎ、 大幅な増税による積極政策を展開し、大規模な道路 の調査改修、港湾調査、保健衛生調査などに取り組 んだ。大正10年、第12代鹿児島県知事、次いで、大 正12年第19代大阪府知事に就任。その後、衆議院議 員選挙法改正調査会幹事、大礼使事務官、日本赤 十字社副社長、軍事保健院参与等となる。また秘密 顧問官のほか日本医療団評議員となる。	大正12年9月29日～ 昭和2年5月17日
第20代	田邊 治通	山梨県出身。東京帝国大学法科大学を卒業後、通信 省に入省する。平沼内閣の内閣書記官長に就任。 3ヶ月後に通信大臣も就任。平沼内閣は短命に終わ り、通信大臣就任から4ヶ月余りで辞任。昭和16年、 第3次近衛内閣発足時に前任大臣の平沼の推荐で 内務大臣に就任。だが、この内閣も3ヶ月で倒れてい る。	昭和2年5月17日～ 昭和3年5月25日
第21代	力石(ちからいし) 雄一郎	愛媛県喜多郡大洲町出身。東京帝国大学法科大学 法律学科卒業。文官高等試験に合格、直ちに内務省 に入る。徳島県参事官、岩手県警察部長、地方官官 制改正で岩手県参事官第四部長に補す。大正3年第 二次大隈内閣成立と共に、長野県知事に就任。以 降、大分県知事、茨城県知事、宮城県の知事を歴 任。いずれの県でも政友会色を鮮明にしたため、加 藤内閣のときに休職。昭和2年、田中義一内閣で復 帰し、第29代秋田県知事、第23代新潟県知事、第21 代大阪府知事に就任。田中内閣瓦解により辞表を 提出し辞任した。	昭和3年5月25日～ 昭和4年7月5日
第22代	柴田 善三郎		昭和4年7月5日～ 昭和6年12月18日
第23代	齋藤 宗宜		昭和6年12月18日～ 昭和7年6月28日
第24代	縣 忍		昭和7年6月28日～ 昭和10年1月15日
第25代	安井 英二		昭和10年1月15日～ 昭和12年6月4日
第26代	池田清		昭和12年6月4日～ 昭和14年9月5日
第27代	半井 清		昭和14年9月5日～ 昭和16年1月7日

第28代	三邊 長治		昭和16年1月7日～ 昭和18年7月1日
第29代	河原田 稼吉		昭和18年7月1日～ 昭和19年8月1日
第30代	池田 清	知事再任。	昭和19年8月1日～ 昭和20年4月21日
第31代	安井 英二	知事再任。	昭和20年4月21日～ 昭和20年6月10日
第32代	新居 善太郎		昭和20年6月10日～ 昭和21年1月25日
第33代	松井 春生		昭和21年1月25日～ 昭和21年6月8日
第34代	田中 廣太郎		昭和21年6月8日～ 昭和22年2月21日
代理	大塚 兼紀		昭和22年2月21日～ 昭和22年3月11日
第35代	高辻 武邦		昭和22年3月11日～ 昭和22年4月12日

官選知事

大阪府知事	氏名	就任日	出身
1	1 赤間 文三	昭和22年4月12日	福岡県
2		昭和26年5月2日	
3		昭和30年4月25日	
4	2 左藤 義詮	昭和34年4月25日	三重県
5		昭和38年4月23日	
6		昭和42年4月23日	
7	3 黒田 了一	昭和46年4月23日	大阪府
8		昭和50年4月23日	
9	4 岸 昌	昭和54年4月23日	大阪府
10		昭和58年4月23日	
11		昭和62年4月23日	
12	5 中川 和雄	平成3年4月23日	京都府
13	6 横山 ノック (山田 勇)	平成7年4月23日	兵庫県
14		平成11年4月23日	
15	7 太田 房江	平成12年2月6日	広島県
16		平成16年2月6日	
17	8 橋下 徹	平成20年2月6日	東京都

36 雑喉場橋跡

西区江之子島1-9

- ▶ 明治8年(1875)、百間堀川に架けられた橋です。初期の頃は「下ノ橋」または「新橋」と呼ばれた時期もあったようです。

